

考える力を育てる授業実践記録

(授業者 南場 智恵美)

2年 1組	国語科 単元名	かんさつ名人になろう
授業の改善点 相手や目的に応じ、事実や根拠を明らかにして、自分の考えや意見を論理的に書く。		
【ねらい】 知らせたいことを決め、細かく観察して必要な事柄を集め、友だちに分かりやすく書くことができる。		
【主な学習内容】 1 本単元で重視する「論理的に書くこと」 本単元は、「今週のニュース」でみんなに知らせたいことをカードに書いて掲示板に貼るという活動を発展させた「書く」単元である。次のような学習を展開し、対象を自分なりの観点で詳しく観察し、自分の考えを入れながらまとまりのある、相手に分かりやすい文章を書く力を高められるようにする。 ①調べることを決める。 ②調べる対象を絞り、観察する。 ③調べたことに対する自分の考えをまとめる。 ④組み立てを考え、事柄の順序・語と語や文と文の続き方に注意して書く。 ⑤友だちが書いた文章を読み、感想を交流する。 2 「論理的思考力」を高めるための指導の工夫 (1) 必要な事柄を集める 「育てている野菜のことを知らせる」という目的意識をはっきりさせ、書こうとすることを表現するにはどのような事柄が必要であるのか考えさせる。 (2) 自分の考えを入れる 自分の考えを明確に表すには、簡単な組み立てを考えることが必要な能力といえる。そこで、簡単な組み立てを考え、文の始まりと終わりを意識させる。このことが、まとまりのある自分の考えを文章にしたり、説明的な文章の構成を考えたりすることの基礎となると考える。 3 授業の実際 (1) 必要な事柄を集める 単元の始めに自分の野菜のことをどの位知っているかを考えさせたところ、細かいところまで答えられる児童がいなかった。そこで、どんな事柄を観察したら良いかの視点を考えさせた。そこで挙げられたいくつかの視点にそって事柄を集めたので、目的意識をもって学習に取り組むことができた。 (2) 自分の考えを入れる 観察したことから自分の考えを持たせたが、文の中にどのように組み込むのが問題となった。観察したことの後に入れていくと読みづらいという意見から、文章をいくつかのまとまりで分けて組み立てることとした。そこで①何を観察したのか②観察して分かったこと③自分の考えというように3つの段落でまとめることで、書くことを苦手としていた児童も論理的に書くことができた。		
【成果・改善点等】 ○文と文のつながりが不明確で、相手に伝わる文章が書けなかった児童も、組み立てて書くことを意識し、「友だちに分かりやすい」文章を書くことができた。 ○生活科の「やさいにチャレンジ」カードにも、事実と自分の考えを分かりやすく書くように指導している。 △組み立てを意識しすぎて、画一的な指導になり、楽しんで表現することが欠けていたように思う。		

考える力を育てる授業実践記録

(授業者 近藤 直美)

4年1組	国語	単元名	段落のつながりに気をつけて読もう
授業の改善点 説明文を中心に、書く活動も取り入れながら、論理的に読み取る。			
【単元のねらい】 段落ごとの内容とそのつながりに着目しながら読み、大きなまとまり相互の関係や文章全体における役割を理解している。			
【主な学習内容】 1 『かむ』ことの力」を読んで、初めて知ったことや大切だと思ったことを発表し、学習の見通しをもつ。 2 段落のつながりを考えながら『かむ』ことの力」を読む。 ◎ ①～⑨段落を読み、それぞれの内容をまとめる。 <ul style="list-style-type: none">・ 初めに大事なことを書き、その後その説明を続ける書き方をしている段落を見つけ、その効果を理解する。・ 「初め」と「終わり」の段落の役割を考える。・ 4つの大きなまとまりのつながりを考え、「初め・中・終わり」という文章全体の組み立てを理解する。 <文章構成図作成> 3 『かむ』ことの力」を学んだ感想を発表する。			
【成果・改善点等】 ◎ 要点のまとめ方を丁寧に扱ったことで、自力でまとめることができる児童が増えた。 ① 段落の文章を音読する。② キーワードに線を引く。③ キーワードをつなげて短い文にする。(常体) という手順を常に確認し、児童の理解度を見取りながら全体指導をしたり、個人で取り組ませたりした。 ○ 文章構成図を作らせた後、個々に考えた構成図をすべて黒板に提示し、そのように分けた理由を話し合わせることで、段落相互の関係や役割に気付かせることができた。 ▲ 要点をまとめる活動に入る前に、音読ができていないか、語句の意味がわかっているか、文章の内容が理解されているか、児童一人一人の読み取りの状況を把握し、不十分なところは補充しておく必要がある。 ※ 文章を読み取るためには語句の意味理解が欠かせない。日常的に語句の意味を推測して読むことや、どうしても意味が分からないときには辞書で調べる習慣を付けることを大切に指導している。			

6年 1組	国語 科	単元名 「相手の意図を聞き取り，自分の主張を伝えよう」 －学級討論会をしよう－
【授業の改善点】 相手や目的に応じ，事実や根拠を明らかにして，自分の考えや意見を論理的に書く。		
【ねらい】 賛否が分かれる問題について，それぞれの意見の長所・短所を分析的に考え，相手を説得する話し方を工夫したり，相手の論点を的確に聞き取ったりして，結論を導こうとして討論する。		
【主な学習内容】 1 本単元で重視する「論理的に書くこと」 本単元は，賛否が分かれる問題について討論する「話す・聞く」の単元である。それぞれの意見の長所・短所を分析的に考え結論を導こうとして討論していくわけだが，その前に討論の材料となる自分の考えを書くことを重視する。 児童の実態から，討論となると“勝敗”を競うことが大きな目的となってしまうがちである。また，自分の立場のよさを主張して満足してしまうために討論が絡まないことも多い。さらに，個人差が大きく論理的に考えて書くことができない児童も少なくない。これらの実態にも考慮して以下の点に留意した学習活動を展開する。 2 「論理的思考力」を高めるための指導の工夫 (1) 相手の立場を考える 自分の立場を主張するだけでなく，相手の立場の主張を事前に予想させることを通して，自分の主張を振り返りより具体的に筋道立てて説明することが (2) 討論の目的を明確にする 勝敗にこだわることをしないよう，討論の参観者には，個人の説得力ある考え・発言に注目させる。 (3) 個人差に配慮する 書く時間を十分に確保したり，グループ活動を取り入れたりする。 3 授業の実際 (1) 相手の立場を考える 自分のよさを主張することには慣れているものの，相手の立場まで意識が及ばない児童がほとんどであった。しかし，①自分の立場の長所・短所②相手の立場の長所・短所③相手の立場への質問 という3段階を経ることで，「説得力」のある主張ができるようになった。 (2) 討論の目的を明確にする 討論後に「参観者」から，勝敗ではなくて，個人の説得力ある考え・発言をとりあげてよいところを認め合うようにした。教師ではなく，互いにほめ合うことで，勝敗にこだわらない討論ができた。6グループで3回の討論会を行ったが，そのよさに学びながら，回を重ねる毎に，より論理的な発言が多く見られるようになった。 (3) 個人差に配慮する 個人で書いたものをグループ内で検討する時間をとったため，個別指導が必要な児童でもその書き方をまねしながら，考えを表現することができた。		
【成果・改善点等】 ○ユニットテストの結果から見ても，自分の立場を明確にして，意見文を書くことができるようになってきた。また，徐々にではあるが，相手の立場の考えを取り入れて反論したり，自分の立場を主張したりする力が付いてきている。 ▲ユニットテストの結果から，意見文を書く際には，読み手を意識した具体例を挙げることができない。体験を言葉にすること，言葉にしておくという経験を積むことが重要である。それが，討論の際にも生きてくるものと考えている。		